

令和5年度 事業報告書

1、 小規模保育事業施設 こどものおうち すいーとぴー の運営

1 定員 12名

0歳児：2名 1歳児：5名 2歳児：5名

2 年齢別・月別入所児童数(各月初日現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
0歳児	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
1歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
2歳児	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
計	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144

3 職員数・異動

令和5年 4月

保育士 9名

(短時間勤務含む)

事務 1名

4 職員会議・園内研修

- ・ 昨年に引き続き、毎日午睡中の時間を利用し会議を行った。
けがや危険個所（ヒヤリハット）報告、保育活動の振り返り、明日の活動内容の確認等を行ってきた。また、疑問点などは毎日の会議で皆で話し合い解決するようにしていった。
法人内の研修、給食会議、避難訓練前後の会議、主任会などの報告を丁寧にする
ことで、職員の周知徹底を図るように心がけた。
- ・ 法人研修の中で『発達に合わせた引くの取り組み』をテーマとして年間を通して話し合いを行ったことで、園全体だけではなく個々の保育者が、遊びや日課の見直しをし、意欲的に取り組めた。保育に対する視点が明確になったと感じる。

〈学年ごとの実施報告〉

- 0歳児 安心安全な環境の中で一人ひとりにあった保育を実践した。保護者と連携を図り、家庭環境等も踏まえたうえで愛着関係を大切にされた保育を行ってきた。
- 1歳児 子ども達が安心できる環境作りを心掛け、必要に応じて環境を見直した。伸び伸びと欲求を表現する姿を受け止め、気持ちに寄り添う関わりを心がけた。毎日楽しく生活できるように成長に合わせた活動を取り入れるように取り組んだ。
- 2歳児 保育士と一緒に園生活を楽しみ、物事に対する興味関心を引き出せるよう心掛けた。個々の子どもの出来ないことに着目するのではなく、特異なことや好きなことに焦点を当て自信をもって園生活に臨めるように実践した。

〈教育計画と反省〉

- ① 地域性や各家庭の実態などを踏まえ、保護者の気持ちを受け止め、相互の信頼関係を元に、保護者支援を行う。子どもの姿を伝えながら、保護者支援を行う。

（反省）

送迎時や日々の連絡ノートを活用し、各家庭とのコミュニケーションを大切にされた。保護者の不安感、困り感を丁寧に聴き取り、必要に応じて面談をした。保護者の思いを汲み取りながら子どもの成長の道筋を伝え、保護者ができる関わり方などを一緒に考えた。

- ② 小規模保育園という環境を生かした保育を行う。

（反省）

縦割り保育の良さを強みに、保育者の姿を見せ（人的環境）、様々な物、事柄に興味を持てるように環境（物的環境）を整えた。日常生活の中で体づくり（土台づくり）の研究をした。

- ③ 保育士の資質向上のために、各種研修会に参加したり園内研修の充実を図る。

（反省）

園内研修を毎月行うことで保育士の知識を深める事と意識向上を行ってきた。また、園外研修の報告会をし共通理解に努めた。

- ④ 散歩や野菜を育てること、クッキングを通して、身近な自然に親しみ、食べ物や食べることに興味を持つ

（反省）

園庭での栽培したり園の畑に行き、より身近に感じながら収穫までを楽しめた。3学期には、収穫物を調理する家庭も経験したことで、野菜を喜んで食べるようになった。

- ⑤ 幅広い人間関係を築いていくため、子どもたちにたくさんの異年齢活動の場を設けていく。
連携施設との交流を推進する

(反省)

すいーとぴーの友達とのコミュニケーション及びすだじの園庭園舎でのたくさんの友達との触れ合いを日常的に取り入れることができた。保育者同士が連携を図り、計画的に取り入れ、楽しく交流する姿を見せることが大切だと感じた。

〈月ごとの主な行事〉

5月 夏野菜の栽培（きゅうり、ミニトマト、枝豆）
誕生日会

6月 誕生日会・どろんこ

7月 七夕まつり・プール遊び・誕生日会

8月 誕生日会・プール遊び

9月 誕生日会・

10月 芋ほり・炊き出し訓練・どんぐり拾い遠足・誕生日会

11月 どんぐり拾い遠足（芳川公園）・誕生日会

12月 クリスマス会・もちつき・誕生日会

1月 誕生日会・作品展

2月 豆まき会・誕生日会

3月 ひな祭り・お楽しみ会・誕生日会

クッキング（切り干し大根づくり・ブロッコリー・ホットケーキ・すずカステラ
フルーチェ）

※ その他 避難訓練・身体測定・・・ 毎月実施

※ 不審者対応訓練・・・ 12月、1月に実施

※ 健康管理 内科健診(9月)

歯科検診(8月) 実施

※ 毎日の散歩で足腰を鍛えたり、季節の変化を身近に感じ発見することができた。

動植物との触れ合い、観察などが日常的にあり、子ども達が小さな変化に気が付くようになった。